

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果および考察

大阪狭山市立南第二小学校

1. 昨年度の学力向上の取組みの成果と課題

- 「チャレンジタイム」（朝学習）において、全学年で「漢字かるた」「ちゃれんじ漢字」や計算練習に取り組み、また、「協働学習」を大切にする授業研究や学習集団づくりを進めてきたことの成果として、漢字や計算などの基本的な知識技能の定着がみられました。
- ノート指導やふりかえりの書き方の指導を充実させることで、自分の考えを簡潔に表現したり、条件に沿った文章を書く機会を設けた成果として、「書く力」の向上がみられました。
- 昨年度と同様に、すき間時間や家庭学習、長期休業中の宿題として、タブレットドリルを積極的に活用してきたことで、自分の課題を明確にした個別最適な学びを進めていくとともに、基礎基本の定着を図ることができました。
- 設問をよく読み、必要な情報を整理して考える問題に課題がみられました。

2. 教科における成果と課題について

【成果】

【国語】

- 「漢字を正しく使うことができるか」の問題の正答率が全国平均正答率を大きく上回っていました。
- 「条件付きの記述式」の問題の正答率が全国平均正答率を大きく上回り、無回答率は全国平均を下回っていました。すべての授業において、条件に沿ってまとめたり、相手に伝わりやすくなるように、簡潔に自分の考えを書くなど、「書く力」の育成を進めた成果だと考えられます。

【算数】

- 「数と計算」の問題の正答率が全国平均正答率を上回り、無解答率も非常に低い結果でした。日常の計算練習の成果だと考えられます。

【課題】

【国語】

- 「目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討する」問題の正答率が全国平均正答率を下回っています。複数の情報を整理し、そこから必要な情報を読み取ることに課題がみられました。今後、複数の文章や新聞の読み比べなどを通して、情報を整理する力の育成を進めていきます。

【算数】

- 「図形」の領域において、「図形の長さや円周率の関係」についての問題や立体の体積についての問題の正答率が全国平均正答率を下回りました。出題の意図や問題の意味の正しい把握ができないまま、解答している可能性があります。
- 「変化と関係」の領域において、「速さ」についての問題の正答率が全国平均正答率を下回りました。「速さ」の概念について、正しく理解することが課題と考えられます。
- 「データの活用」の領域において、正答率にばらつきがみられました。また、複数の情報を数学的に整理する力に課題がみられます。今後、グラフの数値の読み取りなどから、「数値、データからわかること」をまとめるなど、数学的思考力の定着を図っていきます。

3. 児童質問紙調査について

項目	肯定的割合 (%)		
	R5 本校	R6 本校	R6 全国
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	70.6	86.0	83.5
英語の勉強は好きですか	61.1	73.4	69.3
学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気づいたりすることができていますか。	78.8	92.4	86.3
5年生までで受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。 (「ほぼ毎日」と「週3回以上」の回答率)	47.1	82.3	59.5
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。	88.2	96.2	88.2

○地域の方々に協力いただき、「まち探検」や「米づくり」、「働くこと」についてのお話をさせていただくことで、自分たちの暮らすまちについてより深く知り、「地域や社会をよくするためにできること」を考えました。また「わくわく・どきどきSDGs」のポスターセッションに参加し、自分たちの意見を発信する取組みをしたり、児童主体で「緑の羽根募金」「赤い羽根募金」や義援金の活動を行うことで、普段から「地域や社会、誰かのために何かしたい」と考える児童が多くなったと考えられます。

○「外国語」の授業において、ALTとのかかわりの中で、児童が「英語に親しむ」場面を多く設定していることの成果がみられます。今年度は、特に専門的な英語教育を通してさらなる英語力の向上に努めるとともに、「BASE in OSAKA」を活用してパフォーマンステストなどに取り組み、「英語を話す」ことを楽しみながら学んでいるような授業づくりを進めていきます。

○昨年度と同様に、「考えが広がり、深まり、つながる授業づくり」を研究テーマとして、教職員の授業力向上の取組みを進めています。「自分の考え」をもち、伝え、他の人の意見を聞くことで、自分の考えを深められる「協働学習」を大切にする授業研究や学習集団づくりを進めてきたことの成果がみられました。今年度は、算数、理科において教科担任制を進め、専門性をいかした授業と「協働学習」のさらなる推進を図っていきます。

○どの授業においても、クラスルームやオクリンクなど、タブレットを効果的に活用し、意見交流などを円滑に進める取組みの成果がみられました。引き続き、タブレットを有効活用しながら、個別最適な学びと協働学習を進めていきます。

○「道徳」の授業において、児童が題材を「自分事」と捉えられる授業研究を進める中で、「対話」を大切にするしかけを効果的に設定した成果がみられました。今後も、相手のことを理解し、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重できる児童の育成に努めます。